

## アイラ島再び（その5） 佐伯 順弘（岐阜県）

## DAY8 (15AUG2016) アイラ島→グラスゴー

アイラ島に到着8日目。月曜日。今日は、日本では敗戦記念日。そして今、当時敵国であった英国に好き好んで研究に来ている。（物見遊山ではない。実踏である。）戦争の記憶のない世代にとって英国は憎むべき対象ではないが、戦時中を生き残った人々にとってはどうだろう。敵として銃を向けることはあっても、人として相手のことを尊重できただろうか。それぞれが国家のために戦ったが人として憎しみ合ったわけではないと答えるのだろうか。大日本帝国海軍軍人であった祖父からは敵を憎む言葉を聞いたことはない。様々な情報に接することのできる今ではあるが、結局のところ、近い人の言葉から最も影響を受けるのかもしれない。さらに、ロンドンオリンピックの時に初めてロンドンの人々の温かさに接して以来、英国の人々に対する好感度は決して低くない。

そんなことを量子コンピュータ並みの速さで考えつつ、起床したのが0630。ややレアな排便を済ませシャワーを浴びると、記録ノートと今日の計画を確認した。0725 朝食へ。いつものフルブレックファースト。英国を旅する時は、基本的に1日の栄養のほとんどは朝食で摂取することになる。



0800 部屋の片づけ。立つ鳥跡を濁さず。来た時よりも美しく。学校や少年自然の家で叩き込まれた多くの日本人がもつであろう美德を発揮して、部屋を片付ける。さすがにベッドメイキングまではしないが、ある程度は整えておく。日常から整頓しているので瞬時に作業は終了。とりあえずチェックアウトする。これから、Caol Ila に行き、午後から空港に向かうので荷物をフロントで預かってもらう。行動中はできるだけ身軽でないといけない。



0815 ホテル出発。雲量9.5といった空模様だが、天気は悪くない。暑くなくてちょうどいい。バス停近くにあるポストへカードを投函。次に、その近くにある生協で、水500 mL 2本を買う。

0840 目的のバスに乗り込む。そのバスはCaol Ilaの近くは通るがそこまでは行かない。そこで、乗り込むときに運転手に話しかける。「蒸留所まで行きたいんだけど・・・。」という。「そこにはいかないよ。」「知ってる。近くまでいいんだけど。」「わかった。」ということで、近くで降りしてもらった。



日本だったら絶対にこういった交渉はしないが、海外に出ると、自分の意思をはっきりと主張するモードになっているので、自然に交渉することがよくある。どちらかというところ、こういう願いをもっているのだけれど助けてくれないかなあという感じだ。その結果、それで失敗したことも後悔したこともないが、日本でやったことはない。20分くらい乗ると、バス停でない分岐点ところで、「ここだよ。向こうにいくと蒸留所だ。」と降りされた。



目的の蒸留所までは約1km。たいした距離ではない。力強く歩きはじめる。



若干、坂道ではあったものの 20 分くらいで、蒸留所に到着。ビジターセンターに行くと、すぐツアーが始まること。そのまま申し込んで参加する。6GBP。ツアー客は他に 2 人いた。開放的で明るい蒸留所。日差しが直接入ってくるため、暑いくらいだ。いや、夏だから当然と言えば当然なのだが、ここは夏でも涼しいので、それに慣れ過ぎて暑いのが特別という気がしてくる。のんびりした見学で、説明も幸運なことに半分以上理解できたと思う。そんなツアーも終わり、テイスティング。味わい深いドラムであった。(ちなみにドラムとはスコットランドでウィスキー 1 杯のことである。) 記念品を買って近くのバス停に向かう。早めにバス停に到着するが、バス停番号が違うのが気になる。どういうことだ。ちがうのか、まさか、目的のバスはここを通らないのか、通らなかった場合、当然空港行きのバスにも乗ることができない。さあ、どうするどうするどうする。降ろされた分岐点ならどのような経路でも必ず通るからそこまで行けば大丈夫だ。そこまで歩こう。移動日でなければ、別に深夜になってもいいやという感じでのんびりしているのだが、移動日はそういう訳にはいかないのだ。

そんなわけで、移動を始めるとすぐに目的のバスが来た。手を挙げると乗せてくれて、さっきのバス停まで戻ってそこからまた Bowmore へ向けて出発である。

1133 Bowmore 着。

1200 The Harbour INN で昼食。



昨夜の牡蠣で安全性を確認したため、調子に乗って、牡蠣。当然、Bowmore 付き。海老のサラダ、ギネス 2 杯。1324 The Harbour INN のレストランを出る。しかし、ここで大きなミスを行っていたことに気づく。このレストランからホテルまでは約 100m。バス停はその途中にある。そして、バスが出るのは 1335 の予定である。150m を 10 分で移動しなければならない。どうしてそんなミスをしてしまったのかはわからない。アイラ島最後の食事を楽しみ過ぎたのかも知れない。

とにかく、競歩並みの懸命さで移動した。ホテルで荷物を受け取り、バス停に急いだ。そして、時間は無情にも過ぎていた……。失意の中、ふと気づく。人が多すぎる。待っている人が多いのだ。もしかして？そこにいる人に聞いてみた。「空港に行くバスは出発した？」「まだ来てないよ。」バスは遅れていた。その後、間もなくしてバスが来た。助かった。これも日頃の真摯な生き方が幸いしているに違いない。乗車後 10 分くらいして、空港に到着。慌てた割

には、空港でチェックインまで、4 時間待ち。バスの本数が少ないから仕方ないのだが、乗り遅れてもバスで 10 分なら約 10km だから、3 時間もあれば余裕で歩けるはず。そんなことも思いつつ、読書で時間を有効活用する。

1820 アイラ離陸。1840 グラスゴー着陸。

1855 バスで市内へ。

1931 ユーロホテル着。若者が集いそうなホテル。夕方なのにやたら暑い。

2030 街の散歩に出かけるが、早々に引き返してホテルで食事。ハギスバーガーとビール



グラスゴーは都会なので、アイラ島よりガシャガシャして、疲れる。シャワー+就寝

#### DAY9 (16AUG2016) グラスゴー滞在

良い天気。それでも日本ほどは暑くない。



朝食をいただき、シャワーを浴びて、出発準備。今日はグラスゴーの街を探索。

0930 Sightseeing Bus に乗車。観光地を回る乗り降り自由のバス。観光地を効率よく巡るのに便利。ロンドンにも、エジンバラにもあった。おそらく多くの都市にあるのだろう。

0940 サイエンスセンター。1540 ケルヴィングローブ美術館博物館。1800 スタート地点のバス停で降りる。一日で科学館と美術館と博物館を回ったが。グラスゴーはアートの街であり、みどころはまだある。アートとサイエンスを堪能するために、本当は 1 週間ほど滞在したいくらいだ。またいつか来ることにする。



1950 地元で人気のパブで夕食。

2100 ホステルに戻る。

### DAY10 (17AUG2016) グラスゴー→ロンドン

0900 歩いて行ける範囲の探索へ。1時間ほどで戻り、荷物の整理、チェックアウト。

1030 ホステル出発。興味深い大きな駅であるセントラル鉄道駅の探索。慌てる必要もなかったが、バスで空港へ。カフェで読書したり、記録を付けたり、創作活動をしたりして過ごす。

1500 出発フロアへ。1734 搭乗。1945 ロンドンガトウィック空港GTW着。2030 鉄道でロンドン中心部を目指す。2140 St.Pancras 着

2200 今や定宿と化した Generator Hostel 着  
チェックインしてすぐにパブに行くが、もう調理はできないとのことで、ビールとクリスプ（日本でありがちなポテチ）で腹を落ち着かせる。パブを出てからフィッシュアンドチップスの店を発見。とりあえず、食べてホステルに戻り、シャワーを浴びて、寝る。

### DAY11 (18AUG2016) ロンドン→香港

実質、英国最終日である。ロンドンらしく曇。

0730 起床。0830 チェックアウト。0840 近くのパブで朝食。どこでも考えることは同じらしく、スモールブレイクファーストと名付けて、半分の量で出していた。そりゃそうだ。あれを年中食べていけば、太るのは当然。0920 地下鉄駅で鉄道カードにチャージ。また来るので多めに。

1015 LHR ロンドンヒースロー空港着。

1030 ここにきて新たな問題発生。手荷物重量オーバー。いくつかポケットに入れ、クリア。

1200 搭乗。非常口付近の広い席。足が伸ばせるので大変快適。緊急事態のときのサポートについては十分理解しているので全く心配なし。後は「食って、飲んで、映画観て、寝て」を自由に繰り返すのみ。しかも、足元が広いので、好きな時に立ち上がって、足の筋肉を動かすことで静脈の血流を活性化させることもできる。

2410 香港到着。

2450 乗継のために Gate16 到着。

(UK time 2450/18⇒HKG time 0750/19)

香港時間表記に変更。からだは真夜中感覚のはずだが体調はよい。昼夜関係なく食事をとり、映画を観て、眠くなったら寝るという昼夜逆転の数時間を過ごす。逆にそれが新しい土地での対応力を高めるのかも知れない。

### DAY12 (19AUG2016) 香港→台北→名古屋

0750HKG Int'l Airport Gate16 に到着。荷物がリバックパック1つなので、すぐ動けるし荷物番などはいらない。とりあえず、トイレで洗顔、髭剃りなどを終え、若干疲れた心と顔をリセットする。日本到着まではあとわずかである。

0822 洗顔などをしていたおかげで、それほど待つこともなく、搭乗。着席するもまだすぐには飛ばない模様。どうでもいいがこの機体のエンジンがロールスロイス製だと知る。エンジンも作っているのかと感心しつつ、いつの間にか寝ていた。その間に離陸した模様。本当は離陸時の加速度によりシートに押し付けられるような感じを楽しみ、F=ma を実感したいのであるが、どうも着席すると眠くなるというなんの条件反射だかなんだかが発動してしまい、気が付くと飛んでいたということがしばしば起こる。エコノミークラスの座席でも十分快適に着席できているからだろう。

0930 軽食。パイ、クッキー、レモンティー。  
香港を出発したものの、台北で乗り継ぐため、中部国際空港まではまだまだかかる。本当は台北で1週間くらい遊んでから帰りたいのだが、そういう訳にもいかない。(事故が起きました、手違いが起きました、病気になりましたなど言い訳はいくらでも付きそうなのだが、それをやると次回の旅行時にいい顔をされないことが予想される。休暇を出して、完全に私的な時間であるにもかかわらず、「海外旅行届」なるものを出さなければならない職場である。もちろん、そんなものを出さずに勝手に出かける同僚がいることも知っているが、そんなことをチクるほど暇ではない。) 予定を変更することなく、台北ではあっさり乗り継ぎだけする。

(香港と台北の間には時差はない。)

1040 台北で乗継。セキュリティチェック

1200 もう飛んでいた。定刻通り出発したらしい。

1242 食事。タイワニーズテイストの牛丼っまいごはん。パイナップルケーキもついてた。

1430 日本の大地に着陸。NGO 中部国際空港着。

1450 入国審査などを終え、出口へ。

(HKG time 1450⇒JP time 1550)

1550 入国審査などを終え、出口へ。すぐ、ターミナルビルの上の階にある浴場「風の湯」へ。ここは、浴槽から航空機が見えるというなかなか快適な浴場。旅の疲れを癒すにはもってこいの場所である。入浴+タオル¥1030。

1650 食堂でローストビーフ¥1080+ビール¥360。

日本だからと言って、純和食を選ばない

1736 中部国際空港→新鷺沼。まだまだ自宅に帰着するには1時間以上かかるが、それだけ旅の時間が残っているということだ。

201208, 201212 に続いて三度スコットランドを訪れたが、今回の修行を通して、まだまだウィスキーを理解できていないことを思い知らされた。これからもウィスキー修行の旅は続く。それはそうだ。グラス一杯、一杯が修行であり、冒険なのだから。 (完)